

大学・地域共創プラットフォーム香川 2022 年度中長期計画達成状況評価表

事業の方針	高大連携による県内高校からの進学推進		実施組織	進学・教育部会	2022 年度			
	事業名	取組内容			2023 年度活動指標	活動指標	実績	評価
出前講座	高校生等を対象に大学等の教職員が出前講座を実施	150 件	145 件	96 件 年度初めに講座名・内容等を記載した一覧を各高校へ郵送して周知した。	C	目標には満たなかったが、高校や中学校から一定数のニーズはある。コロナ禍ということもあり、オンライン実施の要望もあった。アンケート調査等によりニーズを把握し、周知方法・周知時期・実施方法等についても改善を図りたい。		
総合的な探究の時間	高校の「総合的な探究の時間」に大学等の教職員を派遣して指導・助言を実施	1 校	1 校	県立高校 1 校に、「総合的な探究の時間」の指導助言者として 5 大学 2 短大から教員を派遣した。	A	要望に応じて各大学等の講師を派遣することができた。今後継続して実施するにあたっては、更なる県教委との連携と調整が必要である。		
合同進学説明会	大学等が共同で高校に出向いて進学説明会を実施	7 校	6 校	香川中央高校(6/16)、小豆島中央高校(7/20)、高松東高校(9/28)で実施した。 高松東高校では同校 OB の学生が説明者として 4 名及び動画出演者として 4 名参加した。	B	高松東高校では、県内大学等から県内企業に就職した同校卒業生にも参加を打診したが、実現しなかった。在学生や卒業生の活用は有効であると考えており、今後も各大学に積極的なご協力をお願いしたい。		
公開授業参観	中・高校生等を対象に大学等の公開授業参観を実施	2 回	2 回	・「アニメ・マンガ論」四国学院大学(10/10) 8 名参加 ・「臨床医学各論演習A」徳島文理大学(10/22) 3 名参加 ・「English Expression IV」徳島文理大学(11/19)1 名参加 ・「観光振興・地域創生論」せとうち観光専門職短期大学(12/13) 参加者なし	C	昨年よりも実施大学・実施件数は増えたものの、参加者数は昨年と変わらずごく少数であった。実施方法を再検討したが、新たな事業や現在ある事業の充実を図る方向へ発展的解消することとし、次年度は実施しないこととした。		
広報活動	オープンキャンパスの共同広告を実施	1 回	1 回	ホームページ等を活用した共同広告は行えなかったが、県内全高校にオープンキャンパス日程一覧を送付して教員の参加を要請した。また、高校訪問時に PF 香川及び構成校の広報を行った。	B	オープンキャンパスについては、高校生や保護者だけでなく高校教員にも積極的な参加を働きかけたい。 高校を訪問しての広報活動については構成大学等が連携して取り組みたい。		
	高校へのパンフレットスタンド設置による共同広告を推進	パンフレットスタンド設置を推進 3 回資料補充	3 回資料補充	必要な高校にはパンフレットスタンドをほぼ設置できたことから、新たな設置依頼は行わなかった。設置済パンフレットスタンドには、資料を適宜補充した。 (設置校数 23)	C	パンフレットスタンドに替わる有効な広報手段の検討が必要となる。 パンフレットスタンド設置高校には次年度以降も継続して資料を適宜補充することとなった。		
	大学等の「キャンパスガイド」を作成し、高校生や中学生等に配布	県内高校 43 校 中学校 71 校等へ送付	県内高校 43 校 中学校 71 校等へ送付	昨年度版を一部時点更新して、県内の高校 2 年生全員及び県内高校・中学校の各教室用に作成(11,000 部、県内高校 43 校、中学校 71 校等へ送付)し、校長会等で積極的な活用を依頼した。 また、県及び各市町教育委員会、中高の校長会等に配布(県東京事務所、大阪事務所、ふるさと回帰支援センターにも送付)した。	A	直接高校生の手元に届く冊子での配布は効果的な広報手段であるが、コスト面での課題がある。次年度は PF 香川ホームページに Web 版を構築し、活用を促すために高校・中学校向けのチラシを作成・配布することとなった。		
	ホームページを活用しての情報発信及び広報活動の推進	50 件以上更新	(活動指標なし) 新ホームページ開設	新プラットフォーム設立によるホームページ開設に向けて、作成業者決定及びデザイン検討等を行った。 3 月から運用を開始した。	A	公開後は、内容を充実させ、PF 香川の設立目的を果たせるよう有効活用に努めることが大切である。 次年度は各大会が実施するイベントなどの主催事業の他、共催・後援事業や話題等を中心に情報発信したい。		
自己評価	【活動状況】 取組数 8 未達成取組数 0			【計画達成状況】 (S) 0 (A) 3 (B) 2 (C) 3 (D) 0			全体評価	B
今後の対応等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座、総合的な探究の時間については、高校等への周知方法を検討するとともに、受講者(学校)へのアンケート調査によるニーズ把握等を通じて、改善に努めたい。</li> <li>・各取り組みの充実を通じて初等中等教育のさらなる支援を行うとともに、県内大学等への進学促進を図りたい。</li> <li>・2022 年度自県大学進学者の割合は 17.4%と2割を切った状況が続く中、2023 年度自県大学進学者の割合 21%の目標達成に向けて、諸取組の充実を図っていく必要がある。</li> </ul>							

【評価】

S: 当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。

A: 当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。

B: 当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。

C: 当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。

D: 当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。

大学・地域共創プラットフォーム香川 2022 年度中長期計画達成状況評価表

事業の方針	県内大学等在学生の地域理解・定着意欲喚起		実施組織	進学・教育部会			
	事業名	取組内容		2023 年度活動指標	2022 年度		
活動指標			実績		評価		
単位互換	学生のニーズに合った科目を開講し、受講人数を増やす	講座数750 受講者数20人	講座数730 受講者数10人	講座数 469 受講者数 16人(延べ18人)	B	地理的・時間的制約、学生の動機付けなどが課題である。オンデマンドや e-ラーニング等のコンテンツを持つ大学等が単位互換科目を設定すること、地域志向科目などを増やすこと、学生に活用するよう積極的に働きかけることなどが必要である。	
地域志向科目の情報共有	構成大学等において開設している地域理解、地域連携、キャリア形成に関する科目の情報共有	(活動指標なし)	(活動指標なし)	4月に情報共有を行った。	B	地域志向科目を活用するため、次年度は可能な範囲で単位互換科目に含めることとした。	
地域理解フィールド実習の共同開催	構成大学等から参加学生を募り、フィールドワークおよびアイデア創出ワークを小豆島において夏季休業期間に実施	(活動指標なし)	(活動指標なし)	小豆島一帯においてフィールドワークおよびアイデア創出ワークを実施した。 (10/28～10/30) 参加学生 4 人	B	参加者は香川大学の学生のみであった。新たな取組であったが、参加大学が広がらなかったこと、担当する大学がないということから次年度は実施しないこととした。	
FD・SD活動	FD・SD活動を共同開催する。	5回 受講者数140人	3回 受講者数 80 人	1回 参加者数 232人 危機管理シンポジウムを FD・SD 活動の一環として、PF に情報共有した。	B	次年度以降も引き続き継続して実施することとなった。テーマについて構成大学等からの積極的な提案が必要である。	
リスクマネジメントへの取組	リスクマネジメントへの取組みを検討するための研究会・協議会等開催	2回開催	2回開催	危機管理シンポジウムを開催した。(10/31、香川大学主催、PF 香川共催) 1回 参加者数 232人	B	香川大学で行われるイベントに構成大学等から積極的に参加するよう働きかけたい。	
国際交流	各大学等の外国人学生の交流の場を設定	共同開催2回 参加者70人	1回 参加者30人	香川大学グローバルカフェで開催しているイベントに高専在学中の留学生が参加可能になった。 参加者数 0 名	C	香川大学と連携し、国際交流イベントへの他機関からの参加が可能になったが、平日実施のこともあり申込者がいなかった。次年度以降も可能なら、合同イベントを検討したい。	
自己評価	【活動状況】 取組数 6 未達成取組数 0		【計画達成状況】 (S) 0 (A) 0 (B) 5 (C) 1 (D) 0			全体評価	B
今後の対応等	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォーム構成大学間の連携強化が必要であり、具体的対応策の継続的検討に努めたい。</li> <li>「数理・データサイエンス・AI教育事業」を新規事業として追加する。</li> </ul>						

事業の方針	卒業生の地域就職に向けたキャリア支援事業		実施組織	就職・産業振興部会			
	事業名	取組内容		2023 年度活動指標	2022 年度		
活動指標			実績		評価		
かがわーくフェア	大学等の新卒者等に対する就職支援を目的とした就職面接会及び個別面談会の開催	2～3 回 590 人	3 回 580 人	6 月開催：(対面)延 211 人 (オンライン)延 70 人 8 月開催：(対面)延 111 人 (オンライン)延 28 人 3 月開催：(対面)延 180 人	A	卒業予定者等を対象とした対面方式による「就職面接会」及びオンライン形式による「個別面談」を開催	
業種別オンライン県内企業見学ツアー	業種別の複数社によるオンラインでの企業説明会の開催	3 回	3 回	8 月 24 日(水) 64 人 8 月 31 日(水) 54 人 9 月 7 日(水) 69 人	A	参加者数が昨年の 150 人から 187 人へと増加した。学生アンケートによる評価は「満足」「やや満足」の合計が 9 割を超えた。課題として、学生参加者の確保、コース内容の検討等が挙げられる。	
うどん県の自治体で働こう大懇談会	県内自治体等の担当者やOB・OGと県内大学生が一堂に集まる大懇談会の開催	1 回	1 回	9 月 28 日(水) 延 54 人	A	学生アンケートによる評価は「満足」が 9 割と高い満足度が確認できた。課題として、学生参加者の確保、参加希望者が増えた場合の開催方法等が挙げられる。	
キャリア支援研修	就職活動の始め方や企業研究の方法を説明する研修会の開催	1 回	1 回	10 月 8 日(土) 19 人	B	元ハローワーク丸亀所長を講師として、就職活動の始め方等の説明、自己分析による就職適性検査を実施した。課題として、学生参加者の確保が挙げられる。	
インターンシップ	学生を受け入れる地元企業を募集・調整し、各大学等に情報共有することで、インターンシップを推進	廃止	1回	各大学等に 5 社の情報提供 参加者0名	D	経済団体の会員を対象に受入企業を募集し、応募のあった 5 社の概要について、県内大学等に情報提供を行った。参加者が 0 名であったため、D評価とする。	
公務員・国立大学法人等職員説明会	香川県内の自治体、官公庁、国立大学法人等の説明会を開催	廃止	2回	2 月 15 日(水)：(対面)延 116 人 (オンライン)延 321 人 2 月 16 日(木)：(対面)延 106 人 (オンライン)延 289 人	A	2日間計 18 機関が発表し、延べ 832 名の学生が参加した。学生アンケートの結果、本説明会への評価は回答者全員が「大変参考になった」「参考になった」と回答した。県外自治体等の参加が多くなり、次年度からプラットフォーム事業から除外することにした。	
自己評価	【活動状況】 取組数 6 未達成取組数 0		【計画達成状況】 (S) 0 (A) 4 (B) 1 (C) 0 (D) 1			全体評価	B
今後の対応等	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加学生の確保が一番の課題であり、各大学等での周知徹底及び実施内容の充実に努めたい。</li> <li>2021 年度の県内大学卒業生の県内就職率は 44.1%であり、2023 年度の目標値 52% に向けて諸取組を充実させ、分析・検討を継続して行う必要がある。</li> </ul>						

【評価】

S:当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。

A:当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。

B:当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。

C:当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。

D:当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。